

コロナ禍のもとでの主の晩餐 —長老・改革派教会の視点から—

瀧浦 滋

序

パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。
皆がともに一つのパンを食べるのですから。(コリント人への手紙第一
10:17)

本論の主題は、まず個々人の行動というより主の晩餐という教会の基本行動のコロナ禍のもとでの教会の判断を問うものなので、先達たちの教会の知恵と判断の基本を聞くため、主に教会の信条を学ぶことから始めるのが適切と考える。従って、主の晩餐についての神学者たちの個人的見解を併記比較するなどの研究に入っていくより、むしろ代表的な長老派改革派教会の信条であるウエストミンスター信仰規準で、主の晩餐についての教会の行動の背後にある聖書の教理を、原理としてまず簡潔に聞くことから始めたい。

その上で、コロナ禍のもとでの主の晩餐の多様な困難を述べたのちに、コロナ禍のような疫病などの試練のもとでの世界の改革長老諸教会の主の晩餐への対応例を示し、現在見られる対応を聖書的な主の晩餐の教理に照らし評価したい。

1 主の晩餐の聖書の教えの要点

1) 二つの前提

(1) 信仰生活の規準：靈感された聖書の権威

コロナ禍のもとで、教会の主の晩餐についての態度を検証するに際し、その判断基準となる主の晩餐の教えが、神の御霊がその文言の一言一言を靈感された神の権威を持つ聖書に基づくものでなければならないことを最初に確認したい。主の晩餐は私たちの信仰生活のため主が定められた基軸であり、当然信仰と生活の唯一の基準である聖書の規範で命じられる通り執行されなければならない。

(2) 救われた心に働き導く聖霊

私たちは真理を、神の言葉である靈感された聖書の一言一言を通し、また、私たちに与えられた新生した心を通して働く聖霊の導きによって、知り、判断し、確信する。だから、主の晩餐についての私たちの判断も、聖書の教え命じるところを、私たちが、新生により聖霊が自らの心に与えられたキリストの贖いと救いの恵みへの信仰によって、理解し受け入れてなされることになる。

2) 改革派・長老派教会の信じる主の晩餐

主の晩餐の聖書の教えを知り、それを私たちのキリストへの信仰を与えられて新生した心に照らして咀嚼するにあたり、その手引きとして改革派・長老派教会の主な信条であるウエストミンスター信仰基準によって、教会の主の晩餐についての行動の背後にある聖書の教理の原理をまず簡単に確認したい。そのためにはウエストミンスター信仰告白¹ 29章（主の晩餐について）を見ることがあり、それと並行する北米改革長老教会の証言書（1980年改訂）² 29章で理

¹ 「ウエストミンスター信仰告白」日本キリスト改革派教会信条翻訳委員会訳、新教出版社、1964年、オンライン、日本キリスト改革派教会ホームページ、<http://www.rcj-net.org/resources/WCF/text/index.htm>（2021/10/15 最終アクセス）

² The Reformed Presbyterian Testimony: 北米改革長老教会（RPCNA）ホームページから入手可能な Constitution に含まれている。<https://rpcna.org/trunk/page/convictions>（2021/10/15 最終アクセス）

解を補うこともできるが、まずウエストミンスター小教理問答書³（問 96-97）でその要点を簡潔に確認する。この聖書的な主の晩餐についての基本的考え方は、コロナ禍のもとでの主の晩餐にどのような指針を与えるだろうか。

(1) 主の晩餐とは何か。（問 96）⁴

- 1) 主の晩餐とは、キリストのみ定めによる礼典である。
- 2) 主の晩餐とは、パンと杯を与えることまた受けることで成り立つ。
- 3) 主の晩餐によって、キリストの死が示される。
- 4) 陪餐者（問 97 参照）がキリストの体と血とその祝福に与る。
- 5) それは、身体的に肉的にでなく信仰によって与るのである。
- 6) それは、自身の霊的栄養と恵みに成長することのため与るのである。

この 96 問は、コロナ禍のもとでの主の晩餐にどのような指針を与えるだろうか。中心は「キリストに与る」ことである。

コロナ禍のもとであっても、聖書に明確に残されているキリストのみ定めに従って主の晩餐が執行され陪餐されなければならない。また、キリストの死を示すものとしてパンと杯を（一つから分けられたものとして⁵）それぞれ受けて、身体的にではなく信仰によって霊的に天にいますキリストのご臨在に共にあずからねばならない。そして、コロナ禍であればこそ一層、キリストに身近に与ることによって、自分自身に霊的栄養を注がれ、キリストの恵みのうちに成長し続けなければならないのだ。

では、コロナ禍の制約のもとで、キリストのみ体と血を表すパンと杯に与る

³ ウエストミンスター小教理問答書 日本基督改革派教会信仰規準翻訳委員会訳 つのぶえ社 1958 年、オンライン、日本キリスト改革派教会ホームページ、<http://www.rcj-net.org/resources/WCF/text/index.htm>（2021/10/15 最終アクセス）

⁴ 問 96 主の晩餐とは何であるか。

答 主の晩餐とは、キリストの御定めに従って、パンとぶどう酒を与えること、また受けることによって、キリストの死が示され、そしてふさわしい陪餐者が、身体的、肉的にでなく信仰により、自身の霊的栄養と恵みに成長することのために、キリストの体と血と、そしてそのすべての祝福に与るものとされる礼典である (1)。 1. I コリント 11:23-26、I コリント 10:16

⁵ I コリント 10:17

に際してどのようにすれば、心を妨げられることなく私たちが天のキリストに与ることができるだろうか。

(2) 主の晩餐にどのように与るべきか。(問 97) ⁶

- 1) ふさわしくないままで来て裁きを招かないよう自ら吟味して与る。
- 2) み体をわきまえる知識について、自分を吟味して与る。
- 3) キリストを糧とする信仰について、自分を吟味して与る。
- 4) 悔い改めについて、自分を吟味して与る。
- 5) 愛について、自分を吟味して与る。
- 6) 新しい服従について、自分を吟味して与る。

この 97 問は、コロナ禍のもとでの主の晩餐にどのような指針を与えるだろうか。中心は、「自分を吟味して与る」⁷ ことである。

コロナ禍のもとであっても、「自分を吟味して主の晩餐に与ること」がないがしろにされてはならない。そのためには、まず、み体をわきまえる知識であるが、キリストの十字架の贖いの救いを教会で十分に聞く必要がある。また、キリストにより頼む信仰とその歩みについても教会でみことばの証し(マルチュリア)にあずかって養われる必要がある。そしてキリスト者として教会の交わり(コイノニア)と奉仕(ディアコニア)の中で改めて悔い改めと愛について神に心を探っていただき⁸、新しい服従をまず教会での行動から表す必要がある。

この自らの信仰と生活の吟味は、神のみ前に個人の心で行うものではあるが、

⁶ 問 97 主の晩餐をふさわしく受けるために、何が求められているか。

答 主の晩餐にふさわしくあざかるうとする者に求められていることは、ふさわしくないままで来て、その飲み食いによって、自分にさばきを招かないように、主の御体をわきまえる知識(1)、キリストをかてとする信仰(2)、悔い改め(3)、愛(4)、新しい服従について(5)、自分を吟味することである(6)。

1. I コリント 11:28,29 2. II コリント 13:5 3. I コリント 11:31

4. I コリント 10:16,17 5. I コリント 5:7,8 6. I コリント 1:28,29

⁷ I コリント 11:28

⁸ 詩篇 139:1, 23-24

教会抜きには考えられないのだ。そしてこの吟味を励ますために長老たち(小会)による教会員としての神との契約(洗礼誓約)の確認が定められている。主の晩餐はキリストの体の教会の一員であることを証明し確認する時であり、教会はキリストから「天国の鍵」を委ねられていて、長老たち(小会)は主の晩餐でのこの「天国の鍵」を正しく管理せねばならない⁹。

コロナの制約のもとでも、主の晩餐に際してのそれぞれの吟味と小会による契約の確認がなされて主の晩餐が執行されねばならないことに変わりはない。

3) 聖書の聖餐論の展開

(1) 聖餐の目的—キリストとの結合

以上の考察を受けて、まず、主の晩餐の目的を確認したい。それは「キリストとの結合」にある¹⁰。主の晩餐の中身(content)は、キリストご自身である。そして、主の晩餐は、キリストを記念するだけではなく、キリストのみ前で信仰を告白し、天のキリストに霊的に与るものだ。これはキリストとその福音を表し(illustrate)確認し(confirm)宣布する(proclaim)¹¹ ものである。

私たちは神の恵みと選びにより聖霊のお働きによって心を変えられ(再生・回心・新生)、聖霊の恵みによって与えられた信仰によって「キリストとの結合(Union with Christ)」をいただいた。この心の聖霊の恵みによる変化が私の「救い」である。これをウエストミンスター小教理は神の側からの言葉として「有効召命」(Effectual Calling)という。それは罪の自覚とキリストへの理解や思慕を伴う。そして、この心の変化、すなわち私のいただいた救いから、さまざまな祝福が出てくるのである。その中に、この世では義とされること、子とされること、聖とされることなどがあり、死後と復活の日の祝福がある¹²。

主の晩餐は、この救いすなわち「キリストとの結合」と、そこから出る祝福の全てを、思い起こさせ、確かにし、兄弟姉妹と共有し、宣べ伝えるのである。

⁹ マタイ 16:19, 18:15-18

¹⁰ ウェストミンスター小教理問答 問 30

¹¹ The Reformed Presbyterian Church of Ireland, *In Remembrance of Me: A Book of Preparation for the Lord's Supper* (The Committee on Publications of the Reformed Presbyterian Church of Ireland, 1976), ch.4 "The Meaning of the Lord's Supper."

¹² ウェストミンスター小教理問答 問 29-38

このように主の晩餐の目的は「キリストとの結合」の実質にあるのである。

コロナ禍のもとでも、この「キリストとの結合」が妨げなく覚えられ、陪餐者たちがキリストにふさわしく与る主の晩餐が、守られねばならない。

(2) 主の晩餐の意味

主の晩餐の意味については、キリスト教会の歴史の中でさまざまな理解の変遷がある。D. ウイアー博士¹³は、それをまとめて、まず、主の晩餐はそこにキリストがおられキリストに与かる交わりの場であるとするキリスト現臨(Christ's Real Presence)の立場があり、それには、ローマカトリック教会の化体説、ルーテル教会の共在説、カルバンに導かれたリフォームド(Reformed)諸教会の聖霊による霊的臨在説(天上にいますキリストのみ前の食卓に聖霊によって引き上げられるとする等の考え)があり、他方、主の晩餐の意味としてキリストの十字架での贖いの死のしるし又は象徴(Sign or Symbol)としてのみ考える人々が当時のツヴィングリをはじめ現代の福音派の人々の中にも多くあるとする。

この主の晩餐におけるキリスト現臨の事実から単なる象徴ないししるしへの意味の理解の変化が、今回のコロナ禍における諸教会の主の晩餐への態度に影響を落として垣間見られる。この点での主の晩餐の聖書的な意味の確認が、コロナ禍での主の晩餐の在り方を考える上でも重要な位置を占めるものと思われる。

聖書によるとキリストは約二千年前に昇天され、再臨の日まで現在もそのよみがえりのみ体で天上の御座に仲保者なる王として着座しておられる。従ってキリストのみ体が再臨前の今この地上にいかなる形で存在なさることは考えられない。では、主の晩餐での「み体」と「血」は、しるし又は象徴でしかあり得ないのか？しかし、主は主の晩餐のご制定に際して、「これは私の体です」「これは私の…血です」と明言され¹⁴、ご自身のみ体と血に与ることを求められた。これは単なる修辭的表現に過ぎなかったのか？主の晩餐にキリストのリア

¹³ D. ウイアー博士の2020年12月に神戸神学館でなされたオンライン教会史講義から

¹⁴ マタイ 26:26,28

ルな現臨はあり得ないのか？主の晩餐はキリストに与る体験の時ではないのか。

キリストのみ体は今天にある。従って、その主のみ体と血の現臨に与るということは、この記念のパンと杯に与る時、聖霊によって天上の現臨のもとに挙げられ繋がれて、よみがえりのキリストに与るということに他ならない。

コロナ禍のもとでの主の晩餐であっても、会衆が一つとなつて一つキリストのみ体と血の現臨(Real Presence)にパンと杯に与ることで与ることは、いかなる時も同じでなければならない。コロナ禍のゆえの陪餐へのさまざまな制約がその主の晩餐の意味を曖昧にしないか、が問題なのだ。

これは記念の時というだけではなく、キリストのみ前での告白の時でもある¹⁵。単なる恵みとして受けるときだけでなく、キリストとその福音の救いを表し宣言する時であり、キリストに対して信仰と献身を改めて表明する時である。キリストのみ体の一員として召し出されてみ前に立つ時である。

その意味でも、会衆の中に自分を置いてキリストの体の一員としてキリストのみ前で、自分のキリストにある恵みの契約の誓いを会衆とともに救いの感謝を持って覚え、自分を吟味した上で与るべきものである。教会の中で、他の会衆と共に、一つのパン¹⁶、一つの杯に与ることの意味は大きい。

(3) 主の晩餐の食卓に来ること

以上の考察を踏まえると、主の晩餐の食卓に来ることは、ただキリストの恵みを「受ける」ためのみではない。もっとダイナミックにキリストにあずかりキリストに生きるためである。

主の晩餐が、恵みの契約の礼典であることを考えたい。聖書の契約は神が一方向的に恵みとして宣言されたものであり、神の恵みの歴史的経緯と、神の愛のご要求(中心は十戒)と、祝福と呪いの宣言である。

しかし、「契約」というからには双方向性も持っている。主の晩餐は、契約的礼典として応答の面も持っている。私たちを救いの恵みの約束(契約)の中にご自身の贖いのみ業で入れてくださった王なるキリストが、ご自身の体であ

¹⁵ The Reformed Presbyterian Church of Ireland, *In Remembrance of Me*, 26-27.

¹⁶ I コリント 10:17

る教会を、み前に出てご自分に与るように招かれている。私たちは、その招きに応答してキリストに与る。これは私たちを救うためというより、救われたわたしたちが日々強められて歩むために、食卓に集うのだ。

そして、陪餐前に自己吟味が求められる。主の晩餐にふさわしい贖い主への信仰の告白と言動が求められる。

(4) 主の晩餐の一つ一つの行動の検討

(i) 主の晩餐の食卓への招集は、小会によって十分周知されてなされなければならない。また、信仰と生活の吟味のための準備礼拝が、できれば主の晩餐の前の週の週日の夜にでも複数回持たれることが望ましい。これは、主の御体をわきまえる知識、キリストをかてとする信仰、悔い改め、愛、新しい服従について、会衆が共に自分を吟味するためである¹⁷。

(ii) 礼拝への献身が主の晩餐の冒頭でなされるべきであり、特に、キリストのみ体と血がふさわしく覚えられるための説教がなされるべきである。

(iii) 聖別と配餐であるが、パンとぶどうの飲み物 (Grape of Vine) は通常用いられているものから祈りによって、この主の晩餐の聖なるしるしとして聖別されて用いられる。これはカトリックが信じるように化体するわけではなくパンのままぶどうの飲み物のままとして用いられるが、主の晩餐の用途に聖別されたものの濫用を避けるため、残ったものは司式者によって適切に処置されるのが良い。配餐は主の晩餐の管理の責任からは長老が行うのがふさわしいが、執事に委任することもできよう。

(iv) 陪餐の形態としては、決して祭壇を用いずテーブルを用いて陪餐することは宗教改革において重要なことであった。これはキリストが生贄を再び捧げられる時ではないからである。

(v) パンは、キリストのみ体を表すしるしとして、主のみ定めに従って行っていることが明確であれば、入手可能なもので良いと思う。しかし、一つのパンを分かち合うことは一つのキリストのみ体に共に預かっていることを表す意味で、み言葉にも言及されており¹⁸、大切な意味がある。実際に会衆の面前で

裂き分けると一つのパンを用いることが一番はつきりするが、少なくとも主の晩餐の開始直前に一つのパンから切り分けられてそれを共にあずかっているとすることが明らかである必要があるのではないか。

(vi) 杯も同じ配慮がふさわしいと思われる。実際一つの杯から飲むことの意義を強く強調する Communal Cups の立場もあるが、理解できる。

(vii) 陪餐者が交代して主の晩餐が繰り返される場合がある。会堂の狭さが理由となることもあるが、共にテーブルに着席して与ることを大切にするための時もあった。その交代の際はカペナナターの迫害の時代には詩篇 45 篇、116 篇などがよく用いられた。

(viii) 陪餐後には、適切な説教者が指名されて、主の晩餐の卓上での短い瞑想として、これからの信仰生活について改めてみことばから勧めることも良いこととされる。また、会衆一同が聖書の励ましのみ言葉を輪読することもある。

(ix) 祝祷は、三位一体の神の祝福の宣言である。説教者が神の口として代わって祝福を宣言し、愛する兄弟姉妹をキリストの祝福と共に世に派遣する。

このように主の晩餐の行動の一つ一つを考えてみると、その各段階で単なる個人的な陪餐からのみ考えるのでは十分ではない、主の晩餐に必須の教会的な背景が見えてくることがわかる。教会が存在し、その中で主の晩餐は行われる。

(5) 閉鎖聖餐および小会管理聖餐と陪餐会員の契約

特に主の晩餐の吟味との関連で、改革長老教会の閉鎖聖餐の考え方を紹介したい。考え方の基本は、神のみ前の契約 (恵みの契約への応答としてのキリストへの信仰告白の誓約に加わること) の一貫性である。一人一人は教会の場を借りて、キリストに対して主の契約に応答する信仰の誓約をしている。その信仰告白によってそれぞれは主の恵みの契約の中に抱き入れられる。まず (1) 洗礼の時の誓約があり、(または、両親の誓約によって契約に入れられて、のちに信仰告白の誓約があり)、(2) それが主の晩餐の準備の度ごとに確認され吟味され、(3) その誓約に基づいて教会の信仰と生活の訓練 (戒規) がなされていく。

この契約のことを改革長老教会では陪餐会員の契約と呼ぶ。この洗礼 / 告白と聖餐と訓練の3つのことが、神のみ前の契約への応答の誓約で一貫される。

¹⁷ ウェストミンスター小教理問答 問 97

¹⁸ I コリント 10:17